

2023 年度 事業報告書
2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日まで
(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

1. 事業概要

2023 年度(第 12 期)は「健康手帳」の事業評価を行った。健康手帳は施設を卒園する人に、入所中の健康状態や被曝の状況のモニタリング検査結果をまとめた冊子で、家庭復帰児童も含めると約 300 名に贈っている。このうち住所のわかる卒園生に 3 年前から「食料支援」を贈り、関係を形成して、本年度は健康手帳の利用状況調査を行った。また、児童養護施設避難マニュアルの改訂のために、県内 8 児童養護施設の管理者と連絡調整をして東京電力福島第 1 原子力発電所の廃炉状況の現地視察を行った。

第 11 回定時総会を 2023 年 2 月 4 日 ZOOM によるオンラインで開催して、2022 年度の活動報告、決算、2023 年度の活動計画、予算の承認を得た。また役員を変更した。理事会は 2 月、7 月、10 月に、オンラインで 3 回開催した。

事業 1:健康状態把握事業は、「健康手帳」を、6 施設の 2023 年 3 月で施設を出て自立する卒園する若者 16 名と措置延長 1 名と家庭復帰児童 1 名に、体温計とバンドエイドと共に贈ることができた。また、「熱が出たとき」という冊子も同時に渡して、県民健康調査の住所変更の方法について解説した。

自立前教育としては、青葉学園の卒園生に出前講座「自立後の健康管理」を実施した。

2013 年から卒園時に贈呈している「健康手帳」の利用状況調査を実施した。これに先立ち 2021 年から、健康手帳を贈呈した卒園生を対象に「食料支援」を届け、本年度は 133 名(6 施設)の卒園生に贈った。健康手帳の利用状況調査はグーグルフォームで行った。その結果、回答者 38 名中(回答率 29%)「健康手帳が役に立った」は 34. 2%、「少し役に立った」は 34. 2%であった。

外部被曝のモニタリング事業は、ポケット線量計による測定を 11 年間継続したが、青葉学園は 8 月中止、1 施設では継続している。内部被曝のモニタリング事業では、甲状腺エコー検査は、要フォローの卒園生の検査の受診を支援した。

事業 2:被曝に係わる事業は、「原子力発電所の事故に関わる緊急時の対応マニュアル(2012 年 5 月)」「福島県社会福祉協議会児童福祉施設部会相互応援協定」の改訂のために、事故を起こした原発の廃炉の現状把握を、①東京電力福島第 1 原子力発電所の構内の見学:県内児童養護施設長、福島県内の NPO 会員 21 名で 9 月に訪問した。これに先立つ 4 月に役員が定例の見学会に参加した。②第 7 回国際廃炉フォーラム(原子力損害賠償・廃炉等支援機構主催)に参加した。③オンライン講演会「事故から 12 年後の 1F 廃炉の状況」(講師:木村真三氏 獨協医科大学)を開催して今後の被災リスクと避難のポイントについて学んだ。

事業 3:健康教育に係わる事業は、卒園生を対象として①青葉学園では対面で、②その他の施設では健康手帳と一緒に冊子「熱が出たとき」を渡し、甲状腺の自己検診の方法について、感染を考慮して発熱したときの卒園後の住居地の発熱センターなどをまとめて渡した。

事業 4:看護職等専門職の連携推進事業は、「福島県の児童養護施設の看護職等研究会(福島の施設看護師を対象にした勉強会)」を ZOOM にてオンラインで 2 回(1 月、5 月)、さらに施設見学を含めた第 13 回研究会は、10 月に白河学園の見学と共に対面で開催した。各回、報告書を児童福祉施設部会長に提出した。

事業 5:市民を対象とした啓発活動事業では、ニュースレターを 2 回発行した。12 月発刊のニュースレター 27 号は、卒園生を支援する「一般社団法人 すこやかのかいふくしま」との合併号とした。寄附者の施設見学、福島訪問を、2 月から再開して三団体を受け入れた。

また、卒園した児童養護出身者を対象とした事業を担う「一般社団法人 すこやかのかいふくしま(2019 年 12 月設立)」と連携をして、事業 1 の卒園生の食料支援の他、児童養護施設の自立支援相談専門員など卒園前後の子どもを支援する職員を対象とした「アフターケア担当者の研修会」を 1 回開催した。本会の「将来計画」について、一般社団法人すこやかのかいふくしまと共に協議の場を 2 回設けた。2023 年 12 月 31 日現在、正会員 31 名、賛助会員 56 名、法人会員 3 法人により支えられた。